

オートリフィニッシュセンター

KANPE Auto Refinish Center



自動車補修塗料本部
オートリフィニッシュセンター
野崎倫夫
Michio
NOZAKI

1. まえがき

自動車補修業界は今や、『勤と経験による技能者』より『高度な技術知識を持った塗装技術者』が求められる時代になっている。新しい色材の採用による塗色の『高意匠化』や耐スリキズ塗装などの『高機能化』が進み、高度の技術力、情報力がないと的確に補修塗装することが出来ない。一方、カーディーラーの内製化指向や、各種の規制緩和、保険の自由化などの影響による異業種の新規参入等により、新人の育成も大きな課題となっている。しかし、自動車補修塗装の技術知識や技能を習得するための公的な研修機関・設備、教育内容となると残念ながら十分整っているとはいえない。関西ペイントでは業界の問題解決に少しでも役立つよう、自動車補修の『塗装』『調色』の研修を専門に行う研修所として、94年10月に神奈川県平塚市にオートリフィニッシュセンター東日本(以下ARC東日本と略す)を設立、98年10月に兵庫県尼崎市にオートリフィニッシュセンター西日本(以下ARC西日本と略す)を設立した(写真1,2)。以下に、オートリフィニッシュセンターの設備、研修内容、研修の進め方等の概要を紹介する。



写真1 ARC東日本



写真2 ARC西日本(6階建ての建屋の1・2階がARC専用)

2. 研修設備の概要

ARC東日本と西日本の研修設備は、概ね同一内容となっている。(図1,2)

2.1 下地処理研修用設備

研修生6人が同時に作業できる吸塵装置付の下地処理設備と縦横に移動可能な赤外線乾燥設備6基を備えている。

2.2 塗装研修用ブース

特別仕様の大型自動車用ブースを2基設置しており、内1基は水性塗料にも対応可能なエアブロー装置を備えている。尚、通常の強制乾燥のほか、冬季でも夏季の塗装研修ができるような加温設備能力を有している。

2.3 調色研修用ブース

研修生4人が同時に塗装出来るブースを設置している。尚、ARC西日本では騒音が低く、スプレーミストのはねかえりが少ない研修に適したオイルブースを採用した。

2.4 乾燥設備

ボンネット7枚を同時に乾燥し、新車の焼き付け塗膜も作成出来る大型乾燥機と調色用の小型乾燥器2基を備えている。

2.5 実習室

塗装及び調色研修用の専用実習室には、それぞれ塗料の自動攪拌機、計量器、色差計等を備えている。また、調色

実験室にはマルチアングルカラーセンサー(3方向測定分光光度計式コンピューター調色機)も備えている。

2.6 講義室

塗装及び調色研修用の講義室には、それぞれの講習用見本(工程別塗装見本、塗料及び原材料見本、塗装関連器具・工具見本、色立体・色彩関連掛け図等)を備えている。

2.7 その他

女性の研修生の受入れ設備も設けている。また、ARC東日本には専用の宿泊設備がある。

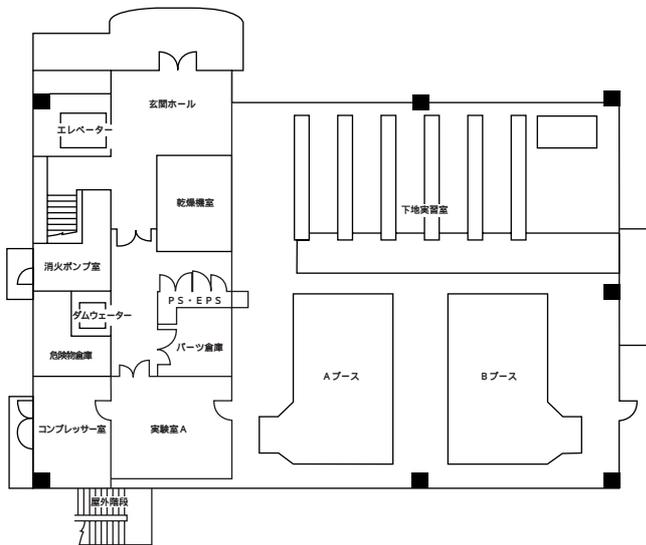


図1 ARC西日本1階平面図

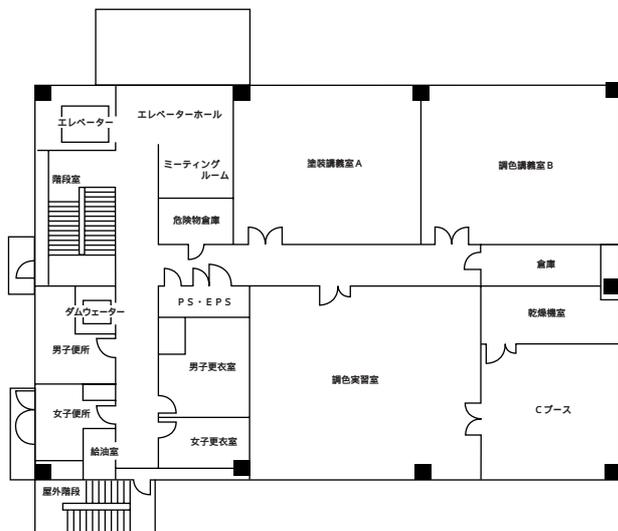


図2 ARC西日本2階平面図

3. 研修コースの概要

研修コースには、カリキュラムや開催日程を予め決めている『定形コース』と受講者の技能や育成したい目標レベルにあわせて研修の時期・期間やカリキュラムを事前に調整して開催する『オプションコース』を設定している。

3.1 定形コース

3.1.1 自補修基礎コース(略号BC)

自補修用塗料及び塗装の基礎知識を修得し、塗装、調色の体験をする入門コース。

フロントマンの研修や自補修塗料販売店セールスマンの新入社員研修に適している。

3.1.2 下地コース(略号UC)

塗装経験のない新人を対象とし、旧塗膜剥離・パテ付け・ブラサフの塗装及び下地の研磨、面だし技術を習得するコース。下地作りの技術知識と技能が習得出来るので塗装技術者育成の初期教育に適している。(写真3)

3.1.3 塗装コース初級(略号P1)

塗装経験の殆どない新人を対象とし、塗料及び塗装用具の基礎知識を修得するコース。塗装の基本動作のトレーニングにより、ブラサフ、上塗りのソリッドカラー、メタリックカラーのブロック塗装が出来るレベルを目標とする。自補修塗装の基礎知識、下塗りから上塗りまでの塗装実技、実習により、塗装の基礎教育を行うので塗装技術者の新人育成に適している。(写真4)

3.1.4 塗装コース上級(略号P2)

塗装経験2～3年の技術者を対象とし、上塗りのメタリックカラー、パールカラー、耐スリキズ・フツソ塗装などのボカシ塗装までの理論、技能のレベルアップを目標とするコース。OJTで習得した技能に対して、理論的な裏付けと一層の技術向上が図れるので、インストラクターの育成にも適している。

3.1.5 調色コース初級(略号CM1)

スプレー塗装の経験はあるが、調色は未経験ないしは1～2年の人を対象とするコース。調色の基礎知識、調色情報の効果的な利用方法を修得し、ソリッドカラーの調色が出来るレベルを目標とする。研修時間の80%以上を調色トレーニングに充当するので、初心者の方の調色技能習得に適している。(写真5)

3.1.6 調色コース上級(略号CM2)

調色の基礎知識を有し、経験3～4年のソリッドカラーの調



写真3 下地コース実習風景



写真4 塗装コース実習風景



写真5 調色コース初級講習風景



写真6 オプションコース実習風景

色が出来る人を対象とするコース。メタリックカラー、パールカラーの調色のポイント、正面とすかしの調整技術、塗装方法と色の变化などの実習を通して技術知識と技能、判断力の向上を図る。高難度塗色に対応出来る上級技術者、インストラクターの育成にも適している。

3.2 オプションコース（略号OP）

受講者の技能レベルに合わせて育成目標を決めカリキュラムを設定するコース。受講の時期や期間について、予めARCの担当講師と派遣元の責任者、受講者と事前に調整し研修する。技能者育成の目標に合わせてカリキュラム、研修時期、期間が選択出来るほか、研修対象の塗色についても限定出来るので、カーディーラー内製工場などの塗装技術者育成に適している。又、上級レベルの技術者に対し、理論講義及び実技実習によるレベルアップを図ることによって、インストラクターの育成にも適している。コース設定の自由度が大きいので、販売店の自主企画の研修コースとして設定することも可能である。（写真6）

4. 研修方法の特徴など

一般的な研修では、『正しい使い方』とか『正しい作業方法』の習得が中心になるが、それでは本当の技術力がつかないため、トラブルが起きた時の対応力が不十分である。当ARCではより応用力のある技術者育成を目的として、市場でよく起こしているトラブル・クレーム例を体験してもらうことを重視した研修を行っている。研修の進め方などの概要は以下の通りである。

4.1 定員 研修期間など

定員は各コースとも6名で、インストラクターは2名で担当する体制で実施している。実技で十分な指導が出来るのは、インストラクター1名で3名が限度という経験からである。定形コースの研修期間は、各コースとも5日間（下地コースのみ3日間）である。オプションコースの研修期間は、1週間を単位とし調整して決定するが、初心者の中堅技術者に育成するコースでは4週間が多い。

4.2 研修の進め方

4.2.1 基本動作のビデオ研修

塗装作業は手作業が中心であり、正しい基本動作の習得が技能上達には欠かせない。自分の動作や欠点は自分では分かりにくいので、基本動作の研修はビデオを利用して徹底的にトレーニングを行う。又、ビデオを見れば、他人の長所、欠点も含めて大いに参考になる。

4.2.2 『失敗に学ぶ』研修

市場で起こしているトラブルの現象はそれほど多くはない。塗装研修ではまずトラブルの事例を再現させて、原因についての技術解説を行ってから正しい作業方法による問題解決の実習を行う。この手法は受講生の理解力、技術力向上に極めて効果的である。調色研修でも計量でのトラブルなどの原因についての技術解説を行って、ギアミキサーやFC原色の大切さなどを実習する。

4.2.3 徹底したパーツ塗装研修

マスキングのトレーニングは実車を使用するが、下地作りやスプレー塗装の訓練では、パーツを使用して、繰り返し数を多くしたトレーニングで、基本動作の習得に重点をおいている。

5. 今後の課題

ARC東日本と西日本は、同一研修方針、同一カリキュラムで運営している。研修内容を充実するためには、市場の新製品の調査、研究は勿論のこと、現場に密着した市場情報の収集は欠かせない。講師の自己研鑽のため、講師が派遣元へ出向き、受講生のアフターフォローを行うと同時に研修成果の確認、研修方法の問題点の調査を行っているが、今後さらに充実していく必要がある。

6. あとがき

94年10月にARC東日本を開講以来、受講生は1500人を越えた。98年10月開講のARC西日本も順調に立上り、東日本も含めて概ね3ヶ月先までの受講予約をいただいている状況が続いている。このことは、ARCの研修活動がユーザー各位に評価していただいた賜物と考えている。又、現在の研修内容の充実は勿論、市場のニーズに合った新しい研修コースの開設も必要と考えている。今後も益々のご支援、ご協力を切にお願いする次第である。

本件に関する問い合わせ

関西ペイント株式会社
自動車補修塗料本部

東京 / 〒140-8520 東京都品川区東大井5丁目24-15

TEL.(03)3472-3116 FAX.(03)3450-4642

大阪 / 〒541-8523 大阪市中央区伏見町4丁目3-6

TEL.(06)6203-5752 FAX.(06)6204-0067